

◇研究テーマ◇

～自らの生き方を追求しながら、伝え合う力を高め、望ましい人間関係を築く～

「ことばと交流」をキーワードにして授業をデザインする

鳥取市立美保小学校

## 1 研究主題について

### (1) 研究主題設定理由

○今日的課題及び学習指導要領から

今日の社会は、都市化、少子高齢化、価値観の多様化と大きく変動をしている。この時代を生きる子どもたちは、多様な考え方や価値観をもった人と、「ことば」によって伝え合い、相互理解を深めながら望ましい人間関係を形成していくことが必要である。

○学校教育目標から

本校は、「夢と希望をもって自らの生き方や目標を追求しながら、社会に生きてはたらく確かな学力と豊かな心・健康な体を育て、ことばを活用してよりよい生活を創造し、体験や交流を楽しむ美保っ子を育成する」を教育目標として掲げ、「体験や交流」を重視して取り組んでいる。

○児童の実態から

本校の児童の実態として、次のような課題がある。

- ・友達や人との交流関係が弱く、話し合いによる課題解決ができていない。
- ・授業が受動的で、発言する児童が偏っているため、活発な話し合いができていない。
- ・自己中心的な部分もあるため、相手を傷つけることばを使うことがある。
- ・目標をもって、継続していく力が弱い。
- ・自分の地域への関心が薄い。

以上の3点から研究主題を設定した。

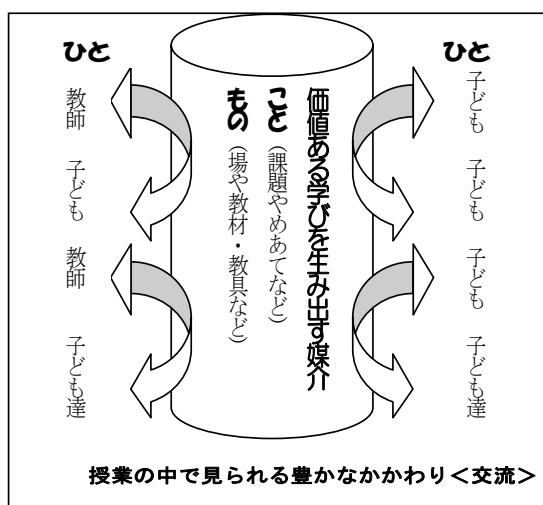
### (2) 「ことばと交流」について

「ことば」は、自分や他者を理解し、自分を表現し、社会と対話するための手段である。「ことば」は、思考力や感受性を支え、交流や感性・情緒の基盤となるものである。自分を表現する「ことば」によって、「ひと」は紡がれていく。

また、「ことば」は確かな学力を形成するための手段でもある。全教科、領域において、「ことば」を手がかりにして、価値ある学びを生み出す媒介（課題やめあてなどの「こと」や、場や教材・教具などの「もの」）

とかかわり合うことで、知的活動を豊かにし、より高い能力を習得することができると思う。

本校では、「ことばと交流」を次のように捉える。



#### <ことば>

特に授業において、自分を表現しながら、他者を理解し、自分と集団を知的に成長させる手段であり、思考力を育て、交流を意義あるものにするもの。

#### <交流>

特に授業において、主体となる学習者が、学びの過程で「ひと」「こと」「もの」と豊かにかかわり合う姿をいう。特に「ひと」との交流に重点を置く。

## 2 研究の重点

今まで本校の研究では、多様な価値観をもった様々な人と、「ことば」によって伝え合い、相互理解を深めながら望ましい人間関係を形成していくことを追求してきた。

これは、特別活動、総合的な学習の時間（コミュニケーションスキル学習）、教科、道徳などの授業を互いに共鳴させながら、「ひと」との交流を深め、「ことば」を通じて気持ちを伝え合い、望ましい人間関係を築いていく正に学級づくりを指している。このような視点から、昨年までは研究主題を「『ことばと交流』をキー

ワードにして学級をデザインする」としてきた。

本年度は、特に国語科と算数科と道徳の時間を柱として、昨年までの理論・実践研究の成果を受けて、全校・学年・学級での共通実践の部分（「授業改善を支える12のプロジェクト」）と、高めたい「ことばの力」を明確にして、目標にせまるための交流活動を意図的に設定するなどの授業改善の工夫に重点的に取り組むことにし、研究主題を『「ことばと交流」をキーワードにして授業をデザインする』とした。

これは、望ましい人間関係を基盤として学び合いのある授業づくりをめざそうとした従来の方向性から、学び合いのある授業づくりを通して望ましい人間関係を創造しようとする方向性への視点の変換である。

### 3 取り組みの実際

研究主題にせまるため、本年度は「授業改善を支える12のプロジェクト」を企画し、具体的アプローチを試みた。その中から、いくつかのアプローチを紹介する。

#### 【授業改善を支える12のプロジェクト2009】

- ① Q-U調査実施・活用プロジェクト
- ② コミュニケーションスキル学習工夫改善プロジェクト
- ③ 朝のクイズトーク・フリートーク推進プロジェクト
- ④ 委員会活動・代表委員会活動を通したリーダー育成プロジェクト
- ⑤ なかよし学年の交流活動推進プロジェクト
- ⑥ 児童集会・全校集会改善プロジェクト
- ⑦ 地域に広がるあいさつ運動実践プロジェクト
- ⑧ 全校表現（音楽）活動推進プロジェクト
- ⑨ 学習規律工夫改善プロジェクト
- ⑩ 外国語活動実践プロジェクト
- ⑪ 移行措置教育課程研究プロジェクト
- ⑫ 学校環境整備プロジェクト

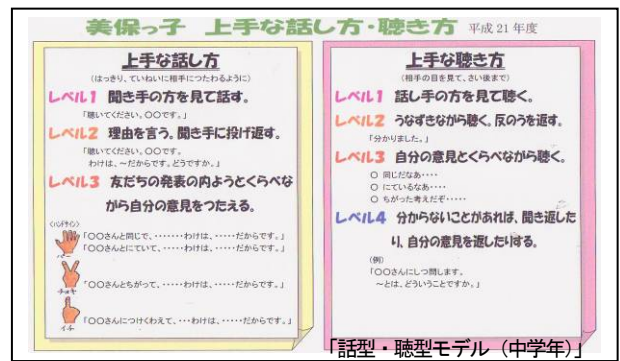
#### 「ことばと交流」に視点を当てた授業改善を図る

##### 【1】スキルの定着からのアプローチ

###### 1) 高めたい「ことばの力」の系統化を図る

○低・中・高学年の系統性をもたせた「話型・聴型モデル」を取り入れ、高めたい「ことばの力」の基礎を養う工夫に取り組んだ。「良い聴き手は良い話し手を育てる」という考え方を共通理解し、スキルの定着と発達段階を追ってのスキルの確実な積み上げを図ることを始めた。授業の中では、スキルに従って自己を表現する段階から、型を脱却して状況に応じてスキルを活

用して表現する段階へと児童の高まりを期待した。



○「ことばの力」を高めるために核となる教科は国語科である。国語科において「ことばの力」にかかわる各種系統表を作成し、発達段階に応じて、見通しを持った基礎基本の定着を図ろうとした。

#### 【「ことばの力」系統表】

- ① 「学習に役立つ言葉」一覧表
- ② 「学習に役立つ言葉」解説
- ③ 「話すこと・聞くこと、話し合うこと」系統表
- ④ 「読むこと」の系統表

○毎朝の10分間を活用し、クイズトークやフリートークに取り組んだ。身に付けた「ことばの力」を活用し、示された話題を媒介として豊かにかかわり合う体験を意図的に仕組むことで、豊かにかかわり合う楽しさを成功体験として積み上げさせたいと考えた。

#### 【2】授業改善からのアプローチ

##### 1) 国語科の授業改善

○課題を明確にし、「ことば」にこだわりながら伝え合い、ともに学ぶ場を工夫した。

#### 第1学年 国語科の実践より

- (1) 単元名 たのしくようもう（「おおきな かぶ」）
- (2) 本時における「ことばと交流」

○挿絵や言葉を手がかりに、場面や登場人物の様子を読み取る力を「ことばの力」と捉える。

○読み取った事柄を他者に伝え、話し合う活動を「交流」と捉える。

つかむ 全時までのあらすじを想起し、本時の学習場面を読む

さぐる かぶがぬけた理由を話し合う。



ペア学習による学びの交流場面を仕組む

**ふかめる** 「うんとこしょ、どっこいしょ。」の読み方を考える。



挿絵や言葉を手がかりに自分なりの読み方の工夫を伝える子ども

紹介された読み方の工夫を動作化を取り入れて意見を交流し、検証する。



**まとめる** 役割読みをし、振り返りカードに書く。

## 2) 算数科の授業改善

○「ことばと交流」を通して算数科のねらいに迫る学習展開の工夫に努めた。

### 第4学年 算数科の実践より

(1) 単元名 角とその大きさ

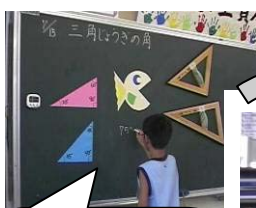
(2) 本時における「ことばと交流」

○できあがった角の大きさについて、数学的手法を用いて、動的に自分の考えを説明する力を「ことばの力」と捉える。

○ペア学習の場面で相手とコミュニケーションを図りながら課題解決をしたり、全体で解法を追究する場面で話型・聴型モデルを活用しながら練り合ったりする力を「交流の力」と捉える。

**つかむ** 本時の学習課題を知り、学習のめあてをもつ。

「1組の三角定規を組み合わせて、いろいろな大きさの角をつくらう。」



「なるほど・・・」学習課題を共有化できた瞬間。

「まずは・・・」「次に・・・」動的に自分の考えを説明する。



**ひたる** いろいろな大きさの角づくりに取り組む。



課題と向き合う「一人学び」の時間を保障する。「こと」「もの」との交流。

**練り合う** 考えを交流し合う。

「この考え似ているなあ・・・」



**深まる** 発展問題にペアで取り組む。



ペアでの発表場面。2人で協力しながら動的説明をする。

**気づく** 学習のまとめをし、振り返り、自己の学びに気づく。

ぼくは算数が苦手です。発表もあまり得意ではありません。でも、Aくんといっしょに問題を解いたり、黒板で説明したりしているとなんだか勇気がもらえます。<後略>

第4学年算数日記より

## 3) 道徳の時間の授業改善

○「ことばと交流」を生かし、考えを深める発問の工夫に努めた。

### 第4学年 道徳の時間の実践より

(1) 主題名 家族は最高の宝物[4-(3)]

(2) 資料名 「金の窓」(自作資料)

**出会う** 自分の持っている「家族」のイメージを想起させ、価値への方向付けを図る。

**追求する** 資料を読んで話し合う。

中心発問で、主人公の気持ちになって、家族に対する多様な考えを交流し合う。



授業の中で、「こころのノート」に綴られた自分の母親からのメッセージと再会する。

**見つめる** 自分にとって家族の意味を話し合う。

**あたためる** 詩を鑑賞する。



### ＜授業後のA子さんの心の動き＞

A子さんは、授業のあったその日に、「家族」について母親と話し合った。中心発問で家族について話し合う中で、自分の家族の温かさを再認識したからである。また、授業で扱った「こころのノート」に「A子がいると家の中が明るく、会話も増えます。いつも明るいA子でいてね。」と書かれていたからである。数日後の作文には、「私が大人になったら、お父さんやお母さんにしてもらったことを、自分の子どもにもしてあげたいです。」と綴られていた。ことばと日常生活での体験が結びついた瞬間である。

### 【3】 人間関係づくりの手法からのアプローチ

#### 1) Q-U調査の結果を分析し学級づくりに活かす

研究の過程において、Q-Uを分析して学級経営を行う工夫をし、人間関係づくりの手法を各教科・道徳などの授業に活かすようにした。

研究の過程で、望ましい人間関係を築くためには、学級内の人間関係づくりを直接ねらうアプローチと、授業を媒介として人間関係を間接的にねらうアプローチをバランスよく織り交ぜながら学級経営を行う必要があることを確認し合った。

#### Q-U調査による全校の「学級生活満足群等」の推移

	学級生活満足群	学級生活不満足群
5月	43%	25%
11月	54%	16%

「学級生活満足群」が大幅に増加し「学級生活不満足群」が減少するなど成果が見とれる。また、授業実践を積み上げる中で、教師一人一人が個の学びの姿をしっかり見取り、指導や支援にあたる「授業づくりの目」が充実してきた。

### 日常生活から「ことばと交流」の力を育む

#### 【1】 全校表現活動からのアプローチ

毎朝、全校で「今月の歌」を中庭に響かせる活動を、共通体験の場として大切にしている。歌声を響き合わせることでコミュニケーションの基本である「心を合わせる心地よさの体験」を積み上げていった。



### 【2】 地域に広がるあいさつ運動からのアプローチ

従来の「校内あいさつ運動」を「地域に広がるあいさつ運動」に進めて地域の人とふれ合う中で、伝え合う力を養うよう努めてきた。また、「美保っ子オンステージ」「交流給食」「米作り」「昔からの遊び」など、保護者や地域住民と交流する活動を実施し、地域の人たちとふれ合う場を増やす中で伝え合う力を育成しようとした。



意識調査からは、あいさつに対する意識の向上が顕著にみられた。引き続き、心地よいあいさつが響き合う学校・地域になるよう継続的に取り組みを進める必要がある。

#### 地域の方からの手紙より

学校を挙げて「あいさつ運動」に取り組んでおいての御様子、貴校の学校だより最新号で拝見しました。学校内だけでなく、地域の人、出会った人に対して、進んであいさつをするということは素晴らしいことです。私達地区住民も、学童の皆さんの行爲に負けないよう、進んであいさつを交わし、明るい街づくりに努めたいと思えました。～どなたにも あいさつ交わして 登下校～

### 集える場を保障する

#### 【1】 校庭の芝生化と中庭の整備からのアプローチ

望ましい人間関係を築くためには、その営みができる魅力ある場を子ども達に提供することが大切である。本年度は、子どもが集える場として校庭を芝生化すること、毎朝歌声を響かせる中庭の整備に取り組んだ。



## 【2】図書館教育からのアプローチ

司書教諭・学校図書館司書職員が中心となって、子ども達が集いやすい図書館経営に努めている。また、地域や保護者の読書ボランティアの読み聞かせを定期的に仕組むなど読書意欲の喚起にも取り組んでいる。その成果から、図書館に集う子ども達は大変多い。



## 4 スーパーバイザーの役割

鳥取県教育センターのスーパーバイザーである国立教育政策研究所総括調査官の西野真由美先生を校内授業研究会に招聘し、道徳の時間の基礎基本について指導をしていただいた。

<研修会の概要>

◇期日 平成21年7月22日(水)

◇日程

【公開授業① 9:30~10:15】

2年2組 資料名「ひみつのぼしよ」(文溪堂)

2年3組 資料名「えんぴつはなんさい」(文溪堂)

2年4組 資料名「えんぴつはなんさい」(文溪堂)

【公開授業② 13:30~14:15】

2年1組 資料名「ひみつのぼしよ」(文溪堂)

【授業研究会 14:40~14:15】

授業研究会では、道徳の授業づくりについて次のような指導をしていただいた。

- 自分の学級の課題を大事にして、育てたい子ども像を明確にしながら指導できているかを今一度見直す必要がある。
- 1時間の道徳のねらいをはっきりさせないといけない。子ども達の話し合いができる授業づくりが大切である。
- よい授業の観点として大切にしたいことの一つに、子ども達が本音で話し合っている、子ども達はその価値について一生懸命に考え、意見を出していることがある。

○この資料で子ども達をどう育てようとしているのか、何がねらいなのか、授業者自身で明確になっていないといけない。単純に資料のねらいに迫ろうということのみでその時間の道徳の授業のねらいを設定するのではなく、子ども達の実態から、授業の中でどれくらい話し合ってくれるだろうとか、どれくらい意見が出るだろうということ見取り、その授業像自体を自分の授業のねらいとして設定することも時には大切である。

本校の道徳の時間の研究視点は、「道徳授業において自己との対話を深めることばの交流をどう図るか」である。このような授業をデザインしていくために、大切にしたい基本的な考え方を学ぶよい機会となった。

## 5 終わりに

本校では、3年前より「ことばと交流」をキーワードに、特別活動・道徳・総合的な学習の時間を中核として研究を進めてきた。また教科指導でも、全ての授業において「ことばと交流の力」に視点を当てながら、学習集団を育て、伝え合う力を育成することに主眼を置いてきた。

「ことば」を用いて人と豊かにかかわり、互いの気持ちや考えを伝え合いながら学びを深める。研究そのものが子どもの生きる力につながるというものである。今、子ども達の中に少しずつかかわり合うことよき、学び合うことの楽しさを実感し、学習や生活の中で、ことばを用いて学びを深めようとする姿が見られ始めている。

また、昨年と比較して欠席者の総数が大幅に減少した。「楽しい学校生活を送れている」「友達関係が良くなった」「授業が楽しくなった」などの理由が考えられ、研究の成果の一つでもあると言えるだろう。

### 4月から7月の欠席者総数の比較

H20年度 609人 → H21年度 400人

### 1日あたりの欠席者数

H20年度 8.4人 → H21年度 5.4人